



第5回日中関係シンポジウム開催（東京）



第5回日中関係シンポジウムが、世界平和研究所と中国人民外交学会の共催により、1月30日に東京で開催された。中国からは、趙啓正中国人民政治協商会議外交事務委員会主任委員を団長とする総勢13名が来日した。

まず、主催者を代表して、佐藤謙当研究所理事長、盧樹民中国人民外交学会副会長からの挨拶の後、来賓の長島昭久内閣総理大臣補佐官、韓志強中華人民共和国駐日本国代理大使から挨拶が行われた。

第1セッションは、「日中関係を考える一戦略的互惠関係の深化」をテーマに、北岡伸一当研究所研究本部長・東京大学教授の議長の下、国分良成慶應義塾大学教授、王泰平元在大阪総領事、川島真世界平和研究所上席研究員・東京大学准教授、李薇中国社会科学院日本研究所所長から報告があり、その後ディスカッションが行われた。日中国交正常化以降の40年間の両国関係の変化を踏まえたうえで、戦略的互惠関係の具現化に向けた諸課題について活発な意見交換がなされた。

第2セッションは、「グローバル化における東アジア地域協力と新たな日中関係」をテーマに、王泰平氏の議長の下、張宇燕中国社会科学院世界経済・政治研究所所長、渡辺利夫拓殖大学学長、張雲方日中関係史学会副会長、高原明生東京大学教授から報告があり、その後ディスカッションが行われた。日中間の協力関係促進に向けた諸課題、環太平洋パートナーシップ等の地域経済連携について活発な意見交換がなされた。

第3セッションは、「国民レベルでの相互理解促進に向けた課題」をテーマに、大河原良雄当研究所理事と黄星原中国人民学会秘書長の共同議長の下、前原誠司民主党衆議院議員、趙啓正委員、林芳正自由民主党参議院議員、中国中央テレビ局キャスター孫宝印氏から報告があり、その後ディスカッションが行われた。なお、本セッションは報道陣、聴衆に公開とした。両国関係を政治・経済・社会面から総合的に分析するとともに、国民レベルでの相互理解の促進を始め、戦略的互惠関係の深化に向けて高い緊急性を持つ諸課題について、フロアとの質疑応答も含め、率直な意見交換が行われた。最後に、盧樹民副会長と大河原良雄理事よりシンポジウム全体の総括が行われた。

会議全体を通して見ると、双方の有識者により、日中二国間だけでなく、政治・安全保障及び経済の両面で、アジア・太平洋や世界を視野に入れた率直かつ活発な意見交換が行われた。日中間の戦略的互惠関係の発展が重要である



との基本的認識に立ったうえで、その具体化に向けて課題があることも明らかとなった。

